

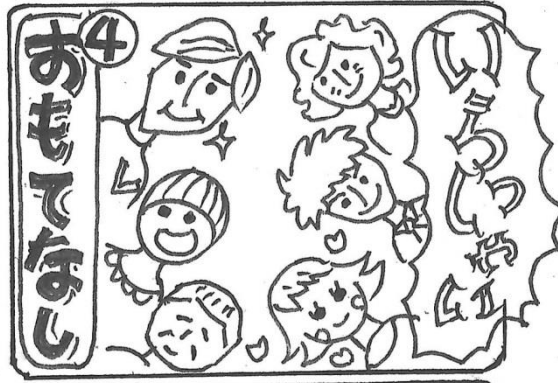
メンバー、ボランティア、学生
みんな仲間!

けやきと仲間 めーる

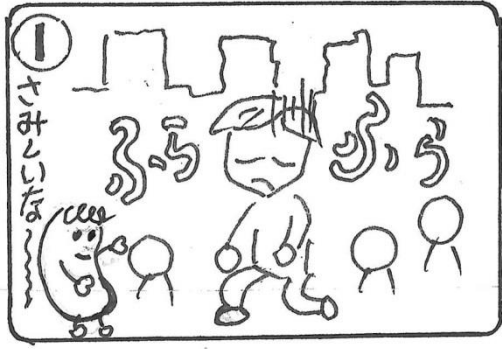
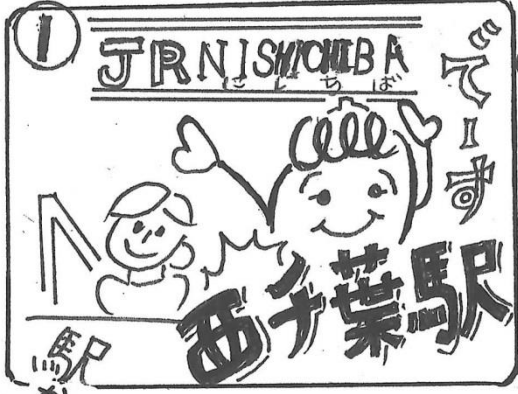


こころの病と闘っている人々と千葉大学生や周囲地域との協働の会 地域活動支援センター「けやきと仲間」

平成 25 年 11 月 1 日(第 103 号)



ぴんちちゃん
けやきと仲間 No.2



作 糸日谷さん



誕生日に想うこと

今も昔も赤ちゃんが生まれることは驚きだったのですね。“うみ（海、生み）にして 太古の民の 驚きを 我ふたたびす 大空のもと”と私の姉誕生時に祝いのうたを詠んで下さった高村光太郎さんは父の友人でした。そしてその翌年、5人姉妹の三女として私は生まれました。75年前の10月21日台風が吹き荒れていたそうです。それから6才で父は亡くなり、日本は敗戦を迎えました。食べ物がなくなり、すいとんや雑炊ばかりの食事で皆、栄養失調でガリガリにやせていました。それでも母は頑張ってくれて感謝でした。高校卒業後、デパート勤めを5年間、そして結婚し3人の子供を育てました。

今75才、長く生きているなあ〜と思います。まあまあ健康で毎日が送れますので有難いことです。これからも毎週火曜日の絵画の時間に、このけやきと仲間みなさんとお会いできる日々を願っています。

松山 雅子



松山さんが描かれた作品です。

松山さんのお話をもっともっとお聞きしたいと思います。
このお話の続きを楽しみにしています。

火曜日の絵画の後の松山さんとのお話に
お付き合いの長い方も、短い方も、
若い方も、そうでない方もみんなの心が癒されています。

今後ともよろしくお願ひ致します。

こころの講演と癒しの音楽に参加しました。

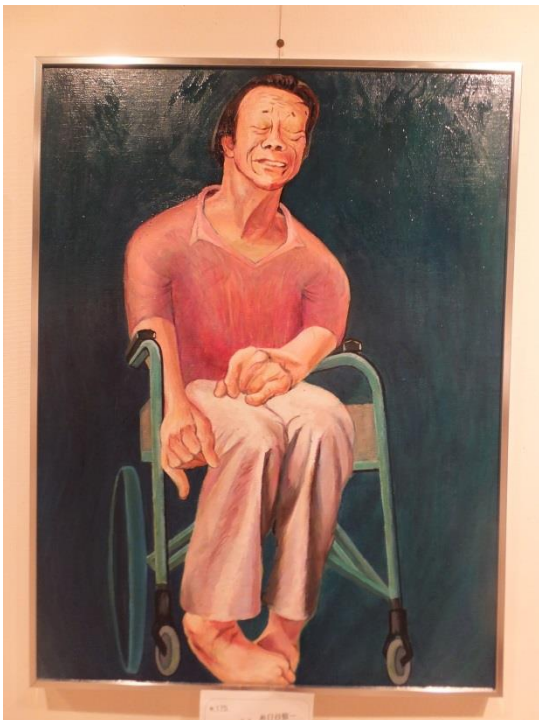
10月20日（日）の午後、千葉市美術館さや堂ホールにて行われた家族会「千花会」主催の「こころの講演と癒しの音楽」には、当会からは8人が参加しました。

参加者の感想です。

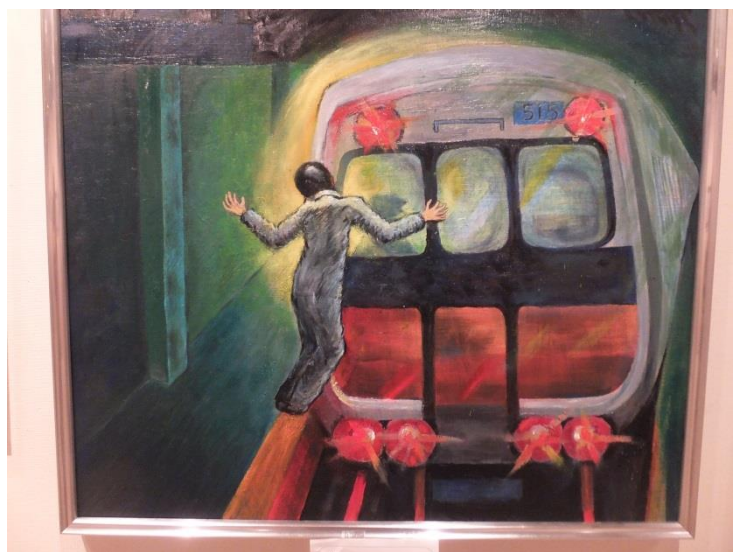
- ・三井ガーデンホテルで1年に1度の「300円カレー」を仲間4人で食べてから行きました。具たくさんで、暖かくて、美味しくて感激でした。そして、初めて入った「さや堂」の厳かさに心が洗われるようでした。とにかく、雨の冷たさも何のそのでした。
- ・石郷岡病院長の三宅俊樹先生の講演も、身近なこととして感じられてわかりやすかったです。素敵な雰囲気先生でした。
- ・千葉大音楽サークルのアカペラと合唱には本当に癒されました。ありがとう。
- ・大学生がテキパキと片付けてくれました。そして、準備も早くから来て手伝ってくれたと聞き、こころ温まりました。
- ・チラシがよかったです。

第19回千葉市障害者作品展にて、糸日谷さんの作品が 千葉市障害者連合会長賞を受賞しました。

今回、糸日谷さんは以下の2作品を出展され、「障害を持つ友人（左）」が千葉市障害者連合会長賞を受賞しました。会期中（10月2日（水）～4日（金））はたくさんのメンバーが会場へ足を運びました。



障害を持つ友人



人身事故

吉川博さんの詩

初秋

アスファルトの道を駆けていく
あの子どもを追いかけて
陽炎が立つ

悲しみの始まりは
誰も気づかずにやってくるもの

振り向いた少女が
もう秋だよと教えてくれた
真昼の風が暑かった

目覚める頃の
言いもせぬ景色を見ている少年

季節が巡れば
いつか何もかも許せるから
痛みは必ず癒せるから

中学三年生

九月の中ごろ
手紙を書いた
机の引き出しに入れた
三日間気づかれなかった

その頃あまり喋らなかった
話をしたことは一度もなかった
何を理由に
恋をしたのだろう

放課後の教室は
黄色に少し赤を垂らしたような
不思議な光が溢れていた
夢見心地の思いで
ぼんやり席に座っていた

彼女がフルートを吹くということは
知らなかった
僕がトロンボーンを吹く

今月の川柳

川柳

碍と害差別なければどちらでも

つながった大学生と千花会

雨の中カレーと歌に心癒される

歌もいだけどカレーはもっとい

眠れぬ夜川柳詠んでやり過ぎす

小腹空き深夜のアンパンかじる僕

ひらのさんしらいしらいとやめてくれ

畑きてのぞく君見てホツとする